

しんらん同人

NO, 519

8月号

二〇一四年八月一日発行 郵便番号111-0052
 発行所 東京都豊島区南長崎一の三の八 誓願寺
 TEL 3950 7828 FAX 3950 6820
 E-MAIL SEIGANJI@RESET.JP

報恩 聴聞の念仏

念仏本来の意味は「仏を念う」念仏、念法、念僧の三念の一つ「仏を慕い、仏を念う」ことが念仏であった。それも悟りを開く方法として智慧を磨き、ものの道理を知り、仏法を念ずるという意味で念仏があつた。即ち智慧を磨くための方便として、心を静め仏や浄土の立派なお姿を心に思い浮かべるための念仏が重要な役割をはたしていた。道綽禪師も末法の悪時、悪衆生に、心を静める

てすすめた。

善導大師は仏教本来の念仏は観仏であり、念仏は称名の事に限るとされている。

法然上人は称名念仏によって浄土に生まれると説かれた。

以後念仏とは、仏のみ名を称える称名のこととなる。

法然上人滅後、念仏往生のことが問題となり、念仏とはどういうことだ、ただ仏のみ名を称えることだけが念仏かと論議された。

浄土宗西山派の西山上人は「念仏とは、仏が



ムチリンダ竜王に護られた仏坐像

悟りを開かれたお釈迦様は、7日ごとに場所を変えて7週間、解脱の喜びにひたる。風雨がやまなかった時、ナーガのムチリンダ竜王がお釈迦様を7重にまき風雨から護った。

われに來たりてわれと一つになったこと」といわれている。

親鸞聖人は「私が如来のみ名を称える」ということは「親を呼ぶ声」としての報恩の念仏と、私の口からでくださる「如来の呼び声、親の呼び声」としての聴聞の念仏の二つの内容があるといわれている。

親を呼ぶ声（報恩）の念仏は、南無は帰命、帰順、教命である。

「阿弥陀仏の教命に帰順する」仰せに任せる、おまかせした信心のところに往生が決定するのであるから、その後の称名は報恩行となる。

親の呼び声（聴聞）としての念仏は、本典行巻の六字釈に「南無の言は帰命なり」本願招喚の勅命なりとある。それに帰命は「命に帰する」ではなく「帰するの命」と訳され、阿弥陀仏が「この私にまかせよ」と如来から私に呼びかけてくださる声である。私が称えているのではなく、私の口を通して出てくださる呼び声を聞く聴聞の念仏である。

南無阿弥陀仏と報恩の念仏を称えながら、その念仏の中から「往生は間違いないぞ」という如来のお呼び声を聞くのである。



前住法話

お浄土は古臭いのか

「後生の一大事」ということは、しばしば語られて来たものであるが、今日ではあまり問題にされなくなつたように思われる。

後生とは現世に対する後世のことであり、われわれの死後の世界を指している。一大事とは二度とない唯一度の重大問題ということである。未来世に浄土に往生する最も重大な問題ということになる。

蓮如上人は「後生こそ一大事なり」

とか、「誰の人もはやく後生の一大事を心にかけて」等と仰せられている。

浄土真宗は往生浄土の教えであるから、浄土に往生することが重大な問題であることはいうまでもない。ところが最近、現実の救いということや、念仏生活の実践ということが強調され、はなはだしいのは念仏を生活に生かす、などと叫ばれている。

極端にいうならば、未来浄土に生まれることなど、どうでもよいのであつて、現実の問題こそ重大であるというのである。

後生の一大事ではなく、現生の一大事と言いたいところなのである。 「後生の一大事」を軽視し、「現生の一大事」を強調する多くの人たちは、唯物論的思想に迎合しているのではないか。

今日的偏向に従うことが、仏教の現代化なのであろうか。うっかりすると、仏教徒が、仏教本来の意趣を破ろうとしている。

浄土に往生することが、古くさく現代人に相応しないから、その

ことに触れないというのなら、浄土往生を説く浄土真宗ではなくなるわけである。

往生浄土を除いてしまふなら浄土真宗は骨抜きになつてしまふ。仏教に顔をそむけている現代人に浄土真宗が受け入れられるように、あらゆる手立てが必要なのはいうまでもない。だからといって骨抜きになつた仏教が（それはもう仏教ではない）いくら多くの人たちに受け入れられたとしても、意味もないことである。

人々に受け入れられるために仏法が説かれるのではなく、迷える人々を救ひ真実に眼を開かしめるものこそ仏法である。

「後生の一大事」が現代人からきらわれるから説かないというのなら、それはもう親鸞の遺弟ではない。真実の教法を宣布するためには努めているのではなくて、わが身を養うために努めていると考えられても仕方がない。仏（如来）は真実の法を説かれたのである。親鸞聖人はこの真実の法を聞かせられたのである。

真実の法は、如何なるものの力をもつてしても、また如何なるも

のによつても、曲げたり、変更されたりするものではない。

いつ、いかなる時代にも変わるものではなく、いつわりのない法であればこそ真実の法である。

如来の法が真実であるから、浄土もまた真実である。これを疑う自分自身がまちがっているのである。

しかし、たしかに浄土が存在している、そこに必ず往来出来ると自ら信じてゆくのではない。如来の教法が、如来の誓願が真実であるから、浄土に生まれさせていただと信ずるのである。

後生の一大事は一大事ともいらないものが解決するのではなく、如来の光によつて一大事と知らされ、如来の願力によつてこの一大事を解決していただくのである。



質疑応答

問 お金がかかるので死んでも戒名を付けたくないと思っていますが、それでも良いのでしょうか。戒名はどうして必要なのですか。

答 あなたが仏式でお葬式をなさるならば、戒名の意味を知っていただきたいと思いますが、（初めにお断りしますが、戒名にあたるものを教義上「法名」と呼ぶ宗派や「戻号」と呼ぶ宗派があります。ここでは「戒名」で代表いたします）

仏式の葬儀とは、生きている人が仏の弟子となる際の作法が応用されたものでした。つまり没後作僧といって、人が亡くなった直後に故人を仏弟子にして、仏さまのもとへお送りする形式を踏んでいるのです。戒名という新しい名前を受けなければ弟子になれないのですから、戒名がなければ葬儀そのものが意味をなさないということになります。

命日という言葉が示すとおり、人間は死によつて無になるのではなく、現世の人間世界より、もっと上等な安らかな心の世界へ「往つて生まれる」のだ

と考えるのであります。

ところで、あなたは「お金がかかるから戒名は付けたくない」つまり、戒名を付けると高くつくと思つておられるようですが、その考え方には、やはり何か大事なものが抜けているのではないのでしょうか。戒名の代価としてご住職個人にお金を払うのだと考ええておられるのであれば、それは間違ひなのです。

戒名というのは、菩提寺のご住職の導きに従い、三宝（仏、法、僧）に帰依し、敬いの証として本尊さまに「お布施」をすることがあつて初めて授けられるのです。ですから本尊さまへの敬ひの気持



ちがなければ本当のお布施とはいえず、それは金額の多寡の問題ではないのです。心から仏縁を幸いとして、文字通りの「喜捨」をすることが出来るかということが肝心です。最近「戒名料」という言葉をよく耳にしますが、戒名の代金と受け取ってしまうと「たつた何文字かの名前に、お金がかかるのは納得がいかない」という不満ばかりが後に残ることになります。

時にはお金とは全く関係なく、菩提寺から最高に立派な戒名を授けられる場合もあります。故人が何らかの「お金には代えられない、尊い貢献」を菩提寺もしくは仏教界のために行つた場合です。本堂が雨漏りするといへば、修理や新築のためにお寺と檀家の間の調整役として文字通り心を砕き、時には憎まれ役をも厭わない人もありました。それは理屈抜きで頭の下がる思いがします。そういう貢献に対して、お寺が何をもつて報いるかといへば、立派な戒名を贈つて尊敬と感謝を表わす他にすべはなく、そのようにして院号、戒名を贈ることが始まつたとしても不思議

ではありません。つまり、お金だけが貢献のすべてではないのです。これをきつかけに、どうか「戒名」の本来の意義を見直していただきたいと思ひます。

新しい納骨壇

安心して生きていくための準備です。お寺の方で永代に供養します。一人用の納骨壇です。費用は三十万円と管理費です。誓願寺で供養いたします。



釈 尚文 独り言

先日、お寺に「番号非通知」で電話がかかってきました。

電話にでると「おじいちゃん僕だよ僕、わかる。」と、おれおれ詐欺からの電話でした。とつさに声のトーンを少し落としてゆっくり「わからんよ。誰？」と話を合わせると「おれだよおれ。分からないの。」。しばらく、よく言われている内容のやりとりがありました。

途中で「僕には男の孫はいない、おれおれ詐欺など止めなさい」と、余程言おうと思いましたが、相手にはこちらの電話番号がわかっていると思うと、さすがにそれ以上の反撃は

ちゅうちょされ、ばかばかしくなり電話をプツンと切りました。その後の電話は残念ながらありません。

こちらの被害は回避されましたが、やはりしばらくは心臓がドキドキしていました。久し振りの緊張で体中に血が駆け巡り、脳が活性化されたと思えば良いのですが、いろいろ考えさせられた出来事でした。

折角ですので、考えた今後への教訓を記載することにし

ます。NHKなどでも、詐欺に合わないための具体的な事例を知らせていますが、実際に電話がかかって対応をすると、だまされないようにする事だけで精一杯となります。

十日(日) 午前十時

聖典講座

正午

健康相談

講師

佐藤公彦医師

十七日(日) 午前十時

なかよしくらぶ

十九日(火) 午前十一時

歎異抄の会

二十四日(日) 午前十時

聖典講座

今後このような事態に遭遇した時に、こちらが攻めの気持ちを持って対応出来れば、もつと余裕が出来ると思います。つまり「おれおれ詐欺の電話だ！待ってたホィ。捕まえてやるぞ。」こう思っ

し、その後、近所の警察にお金などの受け渡し方法を報告し、警察に任せる事です。あとの心配は全く必要ありません。「おれおれ詐欺の皆さん、いつでもお電話待っています。」このような余裕を持つことも、身を守る大切なことでしょう。おかげさまで、八月号の原稿が埋まりました。おれおれ詐欺さん、ありがとうございます。

◎昨年七月病氣をして以来初めて、恭子と共に本山に参詣し、住職、開教使退任式に出席し、前門様、前裏方にもお会いできました。比叡山にも小森さんと共に参詣、昔よく山には行つたが今回は根本中堂や阿弥陀堂の中に入つて手を合わせ、さすが仏教の根本道場だという事を再認識した。

◎退任式で前門と前裏方にお会いでき親しくお話できたのもいい思い出になりました。



上 前門と前裏方
下 住職と開教使退任式

編集後記